令和7年度第1回自立支援協議会要旨録

日時	令和7年5月22日（木）午前9時30分から12時30分まで
場所	渋谷区役所14階大集会室
出席者	<p>〈委員〉15人 笠原会長 浦野副会長 堀口委員 倉本委員 本田委員 古舘委員 安井委員 原委員 小谷委員 和泉澤委員 田尻委員 麻生委員 田村委員 野崎委員 安藤委員 (欠席)1人 大日方委員</p> <p>〈区職員〉15人 福祉部（事務局）：福祉部長 障がい者福祉課長 福祉計画推進係長 障がい者福祉施設係長 経理係長 身体福祉係長 知的福祉係長 精神福祉係長 保健指導主査 福祉計画推進係員2人 健康推進部：健康推進部長 地域保健課長 保健指導主査 子ども家庭部：子ども発達相談センター所長</p>
傍聴者数	25人
議事内容	
<p>1 令和7年度渋谷区自立支援協議会について</p> <p>浦野副会長が、資料1-1、1-2に基づき、令和7年度以降の自立支援協議会の体制について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の自立支援協議会について。 個別の事例を各部会から挙げてもらい、協議会の中でグループワークを通じて検討をする、そして、事例から挙げてきた課題に関して次の具体的な検討に進むというような流れで、模索しながら進めてきた。 ・進めていく中で、たくさんの事例を部会を通してあげてもらったが、その個別の事例が協議会での検討を経てどうなったのか、ということが明確に伝えられていなかったため、資料1-1をもとに改めて確認する。 ・自立支援協議会本会では、過去3回にわたりグループワーク形式で課題の解決に向けた検討を行った。 ただし、協議会本会は個別の事例に関して、1つの事例にフォーカスして対応することができないため、各事例の中で共通する課題に対し、どのように対応していったらよいか、ということを経験してきた（令和6年度は「切れ目の支援」「移動」「（地域との）連携」「住まい」の課題（テーマ）について検討）。 ・協議会本会のグループワークにて、これらの個別の事例が抱えている課題を解決するためのアイデアを出し合い、その結果を整理しまとめたのが資料1-2の内容（8つの項目）。 この資料には、部会にて収集した事例から見えてきた地域課題、また協議会本会にて議論された解決策のアイデア等が全て整理されており、この表が令和6年度の自立支援協議会における成果 	

であるとする。

- 昨年度の協議会のグループワークを通して、大きくまとめた8項目に対して具体的な手立てを出していくこと、また、個別の事例に関しても、どのように集約して、そのフォローをする体制を作っていくのか、併せて提示をしていくことが必要なのではないか。ということが令和6年度の協議会のグループワークを通して出された課題。

- これらの地域課題に対し、具体的に解決に向けてアクションを起こすため、令和6年度も、地域課題とその解決に向けたアイデアを整理する際に、どこが具体的にアクションを起こして対応するか、提案した。

特に、個別の事例に関するフォローについては、地域生活支援拠点連絡会において、施設から地域へと、移行に向けた検討を進める中でお願いしたい。

- 現状制度がない、制度上使えない課題に対しては、今年度より検討を開始する、次期障がい福祉推進計画へ提案していきたい。
- この資料にある全てを今年1年で実現することは難しいかもしれないが、1つ、2つでも、解決に向けて検討を進めていきたい。

また、これらの取組を一步ずつ進めることにより、地域の課題に対して現場の中で解決できる仕組みを作っていきたいと考えている。

2 各専門部会の活動について

(1) 相談支援部会

安井委員が、資料2-1に基づき説明

- 令和6年度から部会の形が大きく変わり、これまで単独で部会をしていたところ、今年度から加えて相談支援部会員が各部会に出席し、それぞれの部会の中で課題について協議し、協議会へ挙げていく形になった。

今年度も継続して各部会2名ずつ出席いただく予定。

- 相談支援事業所連絡会については、今年度も年4回の開催を予定している。連絡会からあがる課題も含めて、協議会へ地域課題の提案をしていきたいため、今年度は連絡会の開催日時を相談支援部会前に設定する予定。
- 相談支援部会の中でも、相談支援独特の課題があがっていることから、年4回しかない部会の中で、メインとなる協議会の議題だけではなく、実際の相談の立場として困っていること、課題についても協議していきたい。

(2) 就労・日中活動支援部会

野崎委員が、資料2-2に基づき説明

- 昨年同様年間4回の定例会を設ける予定。また、部会員については、様々な事業所職員に加え、相談支援部会員、病院のソーシャルワーカーなど、別の視点からの意見も取り入れながら運営していきたい。

- 継続して取り組んでいる少子高齢化に対する取り組みについて。

高齢障がい連携会議について、渋谷区ケアマネジャー協議会、地域包括支援センターと協力し、年

2回の会議を開催予定。(1回目は7月25日 区役所14階大集会室にて開催予定)

高齢化の課題について、1回の会議で解決することは不可能なため、継続して考えていく場、介護の人材不足に関して、特に次世代を担う障がい・介護分野の人材が知り合うことにより、協力して悩みを相談するような場として、今後も続けていきたい。

- 一般就労・雇用支援月間について、令和7年1月、2月に新たな試みとして、これからの進路に悩む人を対象に、就労移行支援等の事業所が中心となり、相談の場を設ける「進路フェス」を開催した。
- 9月には、雇用支援月間の取組として、区役所なくても自主製品の販売会や、理解啓発の取組を実施予定。
- 一般就労に関しては、この他にも一般就労へのステップアップにつなげるため、区役所実習や、プレワーカーという形で障がい者福祉課で働く取組みも継続していく。
- 主な関係機関との連携については、令和6年度の部会再編に伴い、日中活動までテーマが広がったため、生活介護連絡会とも強く連携をしていきたいと考えている。また、渋谷区障害者団体連合会にて、3障がいの様々なテーマについて、また、特に就労継続支援B型事業所が多く集まる渋谷区作業所連絡会にて、一般就労だけではなく福祉就労のテーマについても、引き続き一緒に考えていきたいと考えている。

(3) 子ども部会

安藤委員が、資料2-3に基づき説明

- 運営体制について、今回新たに事務局を設置。
- 今年度の方向性について。
 - 1つ目に、自立支援協議会全体の動きとの連動について。

事例検討を継続して実施し、地域の課題を協議会に共有する。また、これまであげた事例の検討については部会で継続し、新たな課題は随時共有を行う。解決が難しい部分については、次期障がい福祉推進計画に向けて整理していきたい。
 - 2つ目に、子育てネウボラ・障がい児通所支援事業所との連携について。

子育てネウボラ各部署との連携回は、昨年度と同様2回実施予定。子ども家庭部、保健所、保育、教育分野の担当者に加え、今年度は対面で直接意見交換ができる形で開催し、協力体制を引き続き構築する。
 - 3つ目に、保護者支援について。

先輩保護者と、子育てに奮闘している世代を結ぶ。子育てに関する情報提供の場として、しびコミホームページを継続する。
- 子ども部会で取り上げた検討課題について。

学齢期の子どもたちの居場所の不足、中高生の活動の場の確保は、切実な課題である。第一に子どもたち自身の声を聴くこと、家族のこと、渋谷区児発・放デイ連絡会と協力しながら課題を共有し、それぞれの課題、役割を明確にしながら、子育てネウボラと協力し、ともに解決策を考えていく。子ども部会で解決できることは部会で取組み、難しい課題については子育てネウボラ、行政への働きかけを行っていきたい。

(4) 暮らし部会

浦野委員が、資料2-4に基づき説明

- ・年4回の実施予定。メンバーは昨年度と大きな変更はなし。
- ・活動内容について。

各部会員の近況報告、地域課題に関する共有と検討、また、事前に事例をあげていただいているため、その内容の検討、福祉計画の進捗状況のチェックを引き続き実施している。

- ・今年度の取組として、部会の中で事例をあげることから、さらに一歩進んだことを部会として取り組んだ方がよいのではないか、という意見があがっている。

具体的には、今の暮らしや将来の暮らしの可視化。モデルケースとして、実際に暮らしている人にご協力いただき、その人たちの課題、将来何を目標としていて、そのためにどんなサービスや支援が必要なのかということと一緒に考えていき、今の暮らし、将来の暮らしについてのイメージをつくっていく。

そのことにより、具体的な暮らし方が見えてくる上、これらのモデルケースを提示することで、他の人も自分たちの暮らしを考えていくことができるのではないか、ということを検討している。

- ・具体的にモデルを使った事例の検討については、部会の力だけでは難しいため、協議会・運営会議メンバー等にご協力いただきながら（守秘義務の問題や具体的な検討方法などを確認しながら）暮らし部会として、具体的な事例を基に検討できればと考えている。

4 グループワークによる意見交換

これまでの次第について、小グループでのグループワーク形式にて意見交換

グループ①

- ・りばあさいど原宿が開設されたことから、医療的ケア児者の人数なども話題にあがっている。隣接するはあとびあ原宿との連携についても強化していきたい。その上で、今後りばあさいど原宿側の課題についても、子ども部会で取り入れながら見ていきたい。
- ・今後はきめ細やかな支援が必要となり、それを行政にあげていくことも必要なのではないか。
- ・ロールモデルを作り、具体的な検討を進めることも必要なのではないか。
- ・自己決定について。学齢期に自己決定を基盤としてつくってあげることの大切さ。それが成人、壮年期の自己決定にもつながっていくのではないかと、という話があがった。
- ・人材確保について。区独自の対策に対して声をあげていくべきではないかという意見があがった。障がい福祉職員の確保に加え、保育士の確保の必要性。職員に対する住宅支援などを行い、福祉職に寄り添うことができれば、職員の離職を防ぎ、塵埃確保ができるのではないかと、という意見があがった。

グループ②

- ・主に生活の支援に関する部分について。
部会の中で話をしている、同じようなサービスを提供しているところだけで話すと、なかなか全体や、大きな課題が見えづらい。
例えば同時開催の試みなど、今ある専門部会との横のつながり等によって、違う視点からの意見を取り入れながら議論していかないと、大きな課題に対して向かっていくためには、ばらばらに部会から提案するのではなかなか進まないのではないか、という意見があがった。

グループ③

- ・そもそも協議会について、説明は受けたものの、協議会自体が見えにくい、全体がわかりづらいというのが共通の認識としてあるのではないかと。
やはり1つ、2つでも、何か行動に移して結果が出れば少しは見えてくるかもしれないが、現状なかなか見えてきていない部分がある。
そこから、根本的に協議会自体の見えにくさをそれぞれがもっているのではないかと、という話があった。
- ・具体的アクションについて。例えば法定雇用率の問題。障がい者雇用に向け取り組んでいる企業や、そもそも取組めていない企業に対し、実際に実践している企業がどのような取組を行っているか、ということ、障がい者就労支援センターやハローワーク等が共同して実施できれば、企業の理解促進にもつながり、障がい者の雇用の場の確保につながるのではないかと、というアイデアも出た。
- ・できる、できないの問題はあるが、人材不足が顕在化している中で、例えば障がい者雇用に対しても、何か次のステップに進むためには、できることもたくさんあるのではないかと、まず何かアクションを起こせばという意見がでた。

グループ④

- ・「資源を探す」「誰がキーパーソンになるか」ということが重要ではないかというところから話が始まった。
どちらも「障がい」の枠を超え、もっと地域の中でどのような特徴があるのか、障がい福祉以外のサービスはどのようなものがあるのか、という視点で考えていかなければ、解決に結びつけるのが難しいのではないかと、という意見があがった。
- ・関係各所との連携について。
地域ごとの違いや情報がある中で、どのように連携していけば、うまくネットワークが作っていただけるのか。
地域包括支援センターのスタッフや、地域福祉コーディネーターといった、地域で活動している人たちがキーパーソンとなって、どうネットワークを支えていただけるのか、考えられるとよいのではないかと。
- ・医療との連携について。

令和6年12月に開所したりばあさいど原宿での医療に対する支援の部分が、これから地域の障がいのある人達へ広まっていくことが、一つの安心にもつながっていくのではないかと。

- 全体的には、地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター、保健師さんなど、様々なところで活動している人はいるものの、実際にこれらの人がどうつながっていくのか、というところが協議会としてもまだ見えていないことが改めてわかった。

連携と言葉では言っても、実際にどうしたら連携できるのか、という部分については、今後もっと考えていかなければならない。

- 連携を進めるためには、これまでにあがったモデルケースについて、実際に動かしていき、その中で考えていくことも必要なのではないかと。

浦野委員によるまとめ

- 各グループの発表より、いくつかキーワードがあげられていた。

- 前回からも引き続きあがっている、「医療との関係」について。

新しくりばあさいど原宿が開設されたこと、協議会では渋谷区医師会にもご協力いただいている中で、今後具体的にどのようなことを進めていけば、地域の中で暮らす上での医療面の安心感が保てるのか、ということが課題としてあげられた。

- 「連携」について。

協議会の中での連携、地域の中での連携、障がい分野を超えた連携などが改めてあげられているが、具体的に連携を進めていくためにはどうしたら良いのか、もう少しアイデアを出す必要があるし、協議会としての課題である。

⇒その1つの方法としてあげられていたのが、「モデルケース」ということなのではないかと。

地域の中で暮らす具体的なモデルと一緒に考えていくことで、望む暮らしを実現するために必要な資源も見えてくる。

- 関連して、障がい者雇用等の分野においても、具体的な事例を教えてもらう、話を聞くことで、障がい者雇用に関するヒント、また企業にとっても、障がいのある人が働く環境の整備に対してヒントになるのではないかと。

- これらのベースとなる「アセスメント」について。

障がいのある人の自己決定支援をどうしていくのか。サポートする人を支援する人たちをどう確保するのか、ということも、改めて具体的なアクションを提案していくことが必要。

- 全体としてまだまだ協議会の形が見えづらいため、どう見える化を進め、情報を届けるか、ということも検討していく必要がある。

4 障がい福祉推進計画の進捗管理

事務局が、資料3に基づき、令和6年度第4回自立支援協議会開催以降に行われた、障がい福祉推進計画（2024～2026年度）の新規・拡充の取組を説明

- 区内障害福祉サービス事業所向けに、地域生活支援拠点等に関する勉強会を開催（2月）

- ・障がい福祉サービスなど、障がいに関わる様々な分野の情報をわかりやすく伝えるための案内冊子、障がい者福祉のてびき2025を発行。(4月)
- ・区立常磐松小学校に、新たに自閉症・情緒障がい特別支援学級を開設(4月)

5 区・委員からの情報提供

委員から情報提供

- ・渋谷区手をつなぐ親の会 千鳥うちわ講座の開催について
- ・NPO 法人ヒューマンケアクラブストライド 出張ストライドクラブ開催のお知らせ
- ・内閣府 ともともフェスタ2025 ～迎賓館からはじまる「共生社会」～
- ・高次脳機能障がい者支援促進事業講演会『高次脳機能障害 ー理解と対応ー』

区から情報提供

- ・障がい者福祉のてびき2025 発行のお知らせ

6 令和6年度渋谷区障がい者福祉施策報告

現行の障がい福祉推進計画(2024～2026年度)の中で、3本柱として掲げている、相談に関すること、ライフステージに関すること、地域に関すること、いずれにも関連している取り組みとして、地域生活支援拠点事業所として取り組む3事業所より、実際の取組み、また取組みから見えた課題や今後の方向性について、資料4-1、4-2、4-3に基づき説明

- (1) 渋谷区緊急時相談支援事業(受託事業者:一般社団法人しづや系をつむぐ会)
- (2) 渋谷区障害者福祉センターはあとびあ原宿(受託事業者:社会福祉法人友愛学園)
- (3) 渋谷区障がい者基幹相談支援センター(受託事業者:社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会)

会長総括

- ・今回は初の試みということで、今期の障がい福祉推進計画の中で重点的に取り組んでいる地域生活支援拠点等に関する3事業所から発表いただいた。
- ・そもそもなぜ「はざま」や「切れ目」という言葉が生まれるのか、ということを考えると、1つには家族や地域の変化、1つには制度の縦割りなどもあると思う。
しかし、それ以上に、地域でその人らしい暮らしを権利として保障しようと考えたときに、やはりこれまでの制度だと、制度の範囲の中でできることしかできず、そこに押し込めて考えてきたが、その人らしい暮らしをどうやって実現するか、ということを考えると、はざまや切れ目が生まれてきている。
- ・そう考えると、障がい者としての生活ではなく、区民としての生活を保障することを考えると、やはり障がい福祉サービスだけではカバーしきれない、あるいはそもそもサービスを利用していない人もたくさんいることが課題としてあがってきた。
- ・だからこそ、まず1つには、地域との連携の推進。それは拠点等に関わる事業所に限らず、そ

それぞれの事業所で取り組んでいることがあると思う。

その際に、ただ一緒に何かするだけではなく、目的や方法、何に繋がっていくのか、一人一人の暮らしをよくすることにどうつながるのかということ意識して進めることが必要だと考える。

これが事業所レベルでの取り組みについて。

- ・事業所レベルで取り組めることには限界がある。その連携をしやすいするための前提を整えるためには、庁内の連携ということも必要になると思う。

うまくいかないようなことがあれば、協議会で共有して、それを庁内でも検討していくという形で、庁内の連携にもつなげられればと感がる。

- ・更に、制度の柔軟な運用や、制度の充実に対する意見等もある。

一度にすべてには取り組めないが、優先順位も考えながら、計画や施策につなげていく。そういった課題が本日の報告の中で見えてきた。

- ・協議会としては、今後も地域生活支援拠点等、基幹相談支援センター、区と連携しながら、それぞれの役割を分担し、検討を進めていきたい。

7 次回日程について

日時：令和7年8月28日(木) 10時から12時まで

場所：区役所14階大集会室

－ 閉会（12：30）－